

授業科目名	<b>環境デザイン特別講義</b>	科目コード	G3503L01
英文名	Special Lecture on Environmental Design		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>環境問題を地域の視点で捉え、問題解決に向けての方策を考えるため、地域のエネルギー企業、施設、行政担当者を招き富山の実情を学ぶ。具体的には、エネルギー分野の企業、環境保全のための公的機関の担当者、地域活動や自然環境の専門家などを招いて新しい情報提供を受けながら、富山の未来環境をデザインするために情報を収集し、課題解決に向けた方策について考える。少なくとも1回は県外の第一人者の講義を実施する。【SDGs：目標3,7,11,14】</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	災害	エネルギー	環日本海	富山の自然	富山の暮らし
-------	----	-------	------	-------	--------

到達目標	環境に関わる専門分野の第一人者から現在の実情や取組を聞き実態を理解する。			
	環境に関する課題を整理することができる。			
	課題解決のための提案ができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<オリエンテーションとガイダンス> (富山国際大学・上坂博亨) 講義内容、到達目標、評価方法などについて説明する。 授業資料はTeamsを利用して配布し、課題もTeamsにて集めるため、その使用方法についても説明する。	
	【予習】(特になし)	
	【復習】課題提出の練習のための課題を課すので、提出練習をしておくこと。 また、Teamsを使った授業の受け方について復習しておくこと。	30分
第2回	<エネルギーと環境(電気事業者を中心として)> (北陸電力株式会社) 世界・日本のエネルギー事情のなかから特に電力エネルギーについて、日本と世界のエネルギーミックスの動きと北陸地方の電力消費や電源構成について紹介する。また2050年のCO2排出ゼロを実現のための方針を考えていく。	
	【予習】日本の電力利用と、自宅における電力消費について復習しておく	30分
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	30分
第3回	エネルギーと環境(電気事業者を中心として) > (北陸電力株式会社) 原子力発電の構造と機能に簡単に触れながら、東日本大震災以降、稼働が困難となっている原子力発電の現状について紹介する。また将来にむけて原子力発電の役割と見直しについて考えていく。	
	【予習】富山のエネルギー事情について調べる	15分
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	30分
第4回	<富山県の自然エネルギーとその利用> (富山国際大学・上坂博亨) 自然エネルギーは地域によって偏在するため、その利用には工夫が求められる。富山県に豊富な自然エネルギーである水力、地熱、木質バイオマスについて、有効な利用方法について学ぶ	
	【予習】資源エネルギー論で学んだ自然エネルギーについて復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第5回	<エネルギー会社からみた化石エネルギーのゆくえと環境> (日本海ガス株式会社) ガス販売を主体とするエネルギー会社が、2030年のCO2排出量の46%削減、2050年のカーボンニュートラル宣言を受けて、今後どのようなビジネス活動を目指していくかについて、富山のリーディング企業としてのエネルギー企業の方向性を紹介する	
	【予習】生活の中でのガス利用について改めて整理しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第6回	<富山県の知られざる風景> (JOURNALカメラマン・小島崇義) テレビ局のカメラマンも勤める講師が、様々な取材をとおして、あるいは自身の探求によって得られた貴重な富山の風景や自然現象の映像を用いて、富山県の新たな自然について紹介し環境の保全について考える。	
	【予習】(特になし)	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第7回	<環境と福祉の融合の視点(富山県寄付講義)> (社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長・住谷茂氏) 日本の高度経済成長の反面としての環境汚染や社会的弱者の切り捨てなどに端を発した社会的問題にすどくメスをいれ、日本においていち早く環境福祉学を提唱してきた講師による環境と福祉の融合による新たな社会形成について考える。	
	【予習】Web記事( <a href="https://www.smgf.co.jp/sustainability/report/topinterview/detail075.html">https://www.smgf.co.jp/sustainability/report/topinterview/detail075.html</a> ) を通読しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第8回	<環日本海海域と富山(ごみ問題を中心として)> (環日本海環境協力センター・吉田尚弘氏) 富山湾を中心とした海洋ゴミ問題、ならびにマイクロプラスチックなどによる汚染問題などに注目しながら、海洋保全について考える。	
	【予習】海洋ゴミと汚染についてWeb記事などに目を通しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	

第9回	<環日本海海域と富山(文化交流の視点から)> (富山県環日本海推進機構・藤田富士夫氏)	
	【予習】富山県における海洋交通や通商の歴史について復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第10回	<環日本海海域の水環境(海洋生物)について> (魚津水族館館長・稲村修氏)	
	【予習】魚津水族館のHPIに目を通しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第11回	<富山の地形の成り立ちと災害> (立山カルデラ砂防博物館学芸課長・飯田肇氏) 立山連峰をはじめとした急峻で複雑な富山県の地形と、それに伴う災害などの社会現象、また日本で唯一認定されている現存する氷河などについて、その地球科学的な背景から成り立ちを考えていく	
	【予習】立山カルデラ博物館の見学レポートを見直しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第12回	<黒部川の自然と災害> (大高建設株式会社社長・大橋聡司氏) 立山連峰と白馬連邦の間を流れる急峻で水量豊富な黒部川は、下流に居住する人々に豊かな恵みと大きな災害をもたらしてきた。黒部川の治水と利水に取り組む県有数の建設企業が長年の黒部川との闘いについて紹介し、自然との共生について考える。	
	【予習】黒部川の自然環境の概要や重要な地名について、地図などを使って学んでおく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第13回	<富山県の住宅と災害対策> (富山国際大学・川本聖一) 過去から雪害、水害などの闘いによって形作られてきた富山県に特徴的な住宅環境について紹介し、環境と調和した生活スタイルの形成と持続可能性について考える。	
	【予習】これまでの住環境に関する授業を復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第14回	<富山の歴史・自然・文化からみる持続可能性> (早稲田大学名誉教授・宮口侗彦先生) ここまで学んだ富山県の様々な知識を総合する形で、富山という地域を形成した歴史・自然・文化などの相互関係と成り立ちの必然性について、人と環境の関わり合いに注目しながら富山についての理解を深める。	
	【予習】これまでの自分のレポートに目を通し、自身の富山への興味のポイントについて再確認しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第15回	<授業の振り返りと興味ある分野の探求> (富山国際大学・上坂博亨) 第14回までの講義を受けて、富山県の環境から地域の活性化、持続可能な社会創造について考える。特に自分が興味ある分野の一つ決め、指示に従ってインターネット調査を行い、問題点の掘り下げと解決方法を考えてみる。	
	【予習】これまでの自分のレポートに目を通し、自身の富山への興味のポイントを見つけておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第16回	<期末試験> 期末試験としてA4判2枚程度のレポートを課す	
	【予習】(特に無し)	
	【復習】(特に無し)	

評価方法	毎回提示されるレポートの提出（50%）、授業への積極的な取り組み姿勢（20%）、期末最終レポート（30%）		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて講師が提示する	使用資料 <参考図書>	講義によって資料を指示される場合がある
授業外学修等	特に無し		
授業外質問方法	授業の振り返り時間の出欠フォームによって質問を受け付ける。後日の質問はメールでも受け付ける。 Mail address: uesaka@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	毎週(木)曜日 4～5 限目		